

南丹・京丹波の林業

2026.6 第20号



南丹・京丹波林業振興展 「府内産材もくもくコンクール」



南丹・京丹波林業振興展「木材展示記念市（八木原木市場）」

もくじ

- 特集：しりとりに広がる森の循環
～地域の木にふれ、森を感じる～
京都府南丹広域振興局 森づくり振興課 P 2
- 会員だより（南丹市） P 3
- 会員だより（京丹波町） P 4
- 森林組合だより（八木町森林組合・美山町森林組合） P 5
- 緑化運動ポスターコンクール、緑の募金報告、編集後記 P 6

第50回 全国児童・生徒木工工作コンクール 院庄林業特別賞 小学校高学年の部



作品名：「真夏のひまわり」
作成者：林 稚奈さん
学 校：南丹市立八木西小学校6年生

【編集・発行】南丹・京丹波林業振興会
（南丹市・京丹波町・園部町森林組合・八木町森林組合
・日吉町森林組合・美山町森林組合・京丹波森林組合）
（事務局）京都府南丹広域振興局農林商工部森づくり振興課
亀岡市荒塚町1丁目4番1号 Tel.0771-22-1017



しりとりから広がる森の循環 ～地域の木にふれ、森を感じる～

京都府南丹広域振興局 森づくり振興課



1 はじめに

しりとり。りんご → ゴボウ → ウメ……

小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、日常的に楽しませているのではないのでしょうか。前の言葉の末尾の文字をつなぎ「ん」がついたら負け。「ん」で始まる言葉がないことから、日本語ならではの遊びですね。

以前、ある地域の山の図面を眺めていた際、「ンバガタニ」という地名を目にし、「ん」から始まる地名があるのかと驚いたことがありました。調べてみると、「姥ヶ谷(うばがたに)」という地名のようで、図面には地元での呼称(「う」が「ん」に転訛した読み)がカタカナで転記されていたようです。

どんな山奥であっても、谷ごと、場所ごとに呼び名があり、古から地域の人々が森林と関わり、利用してきた営みがうかがえます。そんな山奥にもスギやヒノキが整然と植えられている様子を見ると、先人たちが後世に思いを託し、苦労を重ねながら植林や手入れを行ってきたことに、改めて頭が下がる思いがいたします。

2 育ててきた森林を、次の世代につなぐために

第二次世界大戦により、木材資源として森林が大量に伐採され、森林の荒廃が進み、本来有する国土保全機能が著しく損なわれました。



山奥まで植林された様子

戦後には「拡大造林」が全国的に推進され、京都府でも成長の早いスギやヒノキが積極的に植栽され、山奥にまで人工林の造成が進みました。南丹・京丹波地域における人工林率は約40%、面積は約3万haに及びます。

現在、これらの人工林は伐採・更新期を迎えている一方で、担い手不足や国産材利用の低迷といった課題に直面しています。「伐る→使う→植える→育てる」という林業の循環を取り戻すことが求められていますが、過疎化・高齢化の進行に伴い、所有者や境界が不明確な森林が増加しており、「親から相続したが山の場所が分からない」といった相談が増えています。その背景には、森林や山への関心が世代を追うごとに低下していることがあります。

南丹・京丹波林業振興会では、地域の森林・林業や木材の魅力を広く府民に伝え、地元の木をより身近に感じてもらう取組として、「府内産材もくもくコンクール」を森林・林業及び木材産業の関係者と共催しています。

3 子どもたちと地域で育む「木」の魅力

このコンクールでは、南丹市及び京丹波町の小学校・中学校・支援学校に木工キットを配布し、子どもたちが木工作品づくりに取り組みます。木の手ざわりや香りを感じながら、森林の大切さや木材の使い方について考える機会となっており、毎年、夏休みの取組として定着しています。昨年

度は17校・436名が参加し、各校から選ばれた力作121点がコンクールに出展されました。

昨年度、木工キットとして配布した木材は、南丹市園部町の株式会社湖池屋京都工場の社有林から生じた間伐材を活用したものです。同工場は、地域の自然環境を守るため、工場の裏山を社有林として取得し、地元の森林組合や造園会社と連携のもと、間伐や道づくりなどの森林整備を進めており、そこから出た間伐材を地元の製材所である坂矢木材株式会社において丁寧に製材され、木工キットとして提供されています。地域の資源を地域で活かす「地産地消」の取組が実現したものとと言えます。

審査会には、湖池屋京都工場の担当者にも参画いただくとともに、特別賞の提供という形でも協力をいただきました。「もくもくコンクール」を通じて、地域に根ざした企業の自然環境への思いと、未来を担う子どもたちの創造力が結びつき、木作品という形で地域の木の魅力や森とのつながりが豊かに表現されました。



<特別賞:湖池屋京都工場賞(小学校の部)>

このように、地域の森林や木材を身近に感じてもらう取組は、森林の持つ多面的機能への理解を深める上で重要です。

京都府においては、平成28年度から「豊かな森を育てる府民税」(年額600円)を導入し、森林整備や木材利用の促進に取り組んできました。令和7年度をもって第2期が終了し、第3期として令和8年度からの5年間、「防災対策の強化」及び「木材の利用拡大」に重点を置き、先人が育ててきた森林を次世代へ継承し、引き続き安心・安全な地域づくりを推進してまいります。

4 おわりに

さて、しりとりの続きです。

……ウメ → メダカ → かぜ → 全国都市緑化フェア!

本年秋、京都丹波において「第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波」が開催されます。花と緑にあふれるこの機会に、里山や森の魅力、そして森林・林業・木材産業の価値を広く発信し、「森とともにある暮らし」を「ん」で終わらせることなく未来へつないでいけるよう、準備を進めております。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



令和7年度豊かな森を育てる府民税市町村交付金実績

京都府では森林の持つ多面的機能を守り育て、より豊かなものとして次代の府民に伝えていくため平成27年12月に京都府豊かな森を育てる府民税が創設されました。(令和3年度より5年間延長)

南丹市においては、集落の人家裏等に隣接する里山の一带整備や危険木等の除去を対象とした「南丹市里山再生整備事業」や特用林産物である栗の生産振興を図るため苗木の購入経費に対する支援等に、皆さまによる貴重な税を活用させて頂きました。

令和7年度実績

市町名	事業内容	交付金額(円)
南丹市	・放置里山の不要木整備、危険木除去等への補助	19,001,033
	・栗の苗木購入補助等	157,480
	・林業関係団体等への活動支援等	120,000
	計	19,278,513



南丹市里山再生整備事業の取り組みについて

本事業においては、各町森林組合様を中心にご尽力いただき、集落の人家裏等に隣接する里山の一体整備や危険木等の除去を対象として行っております。



【施業前】一体整備



【施業後】一体整備



食や暮らしを支えてきた京丹波の森に、今こそ関わる。 ～in forest プロジェクト

京丹波町では、ふるさと納税制度を活用して寄付を募る、ガバメントクラウドファンディングを活用し、森林に関わる人を育てることを目的とした、「食や暮らしを支えてきた京丹波の森に、今こそ関わる。～in forest プロジェクト」に取り組んでいます。

この度、3月から、本プロジェクトへの寄附の受付を開始しております。嬉しいことに、5月末時点で、3,154,000円（目標金額の59%）の寄附をいただいているところです。多くの皆様からの温かいご支援に感謝するとともに、さらなるご支援をいただきますようお願いいたします。

【プロジェクトについて】

日本の森林は手入れ遅れや担い手不足などの様々な課題を抱えています。その原因の一つとして「人が山の中に入らなくなった」ことが挙げられます。森林は、水資源の確保や大気の浄化、災害防止や生態系を守ることなど、陰ながら私たちの生活を支えています。山と人との距離が離れつつある今、森林のことを正しく知り、大切さを感じてもらう機会が必要です。

本プロジェクトでは、町内外、年齢問わず、より多くの方が京丹波町の森林に足を運び、森林に愛着をもっていただけるよう「森と人をつなぐ」取り組みを進めていきます。

皆様からの支援金は以下の取り組みに活用します!!

- ・森林フィールドの整備：人が安全に入れる森づくり
- ・森林環境教育プログラムの拡充：子どもから大人まで、森と暮らしの関係を学ぶ機会を広げる
- ・森に親しむ「入口」づくり：遊歩道、簡易トイレの整備、体験イベントを通じて森へ足を運ぶきっかけづくり

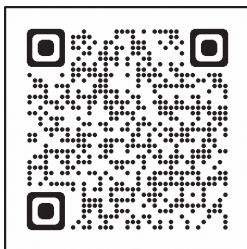
【寄附は下記のQRから】

受付期間：6月末まで

目標金額：5,270,000円

※町内在住の方でも寄附することができます。

※いただいた寄付金は、目標金額未達成でも、全額プロジェクトに活用させていただきます。



たくさんのご支援
お待ちしております!





森林組合だより

森林経営管理制度による森林整備

●八木町森林組合

南丹市内の森林は、私たち森林組合をはじめとする林業事業者が維持・管理に努めてきましたが、森林の広さや担い手不足などにより、間伐の遅れといった課題が生じています。

こうした中、南丹市が取り組む「森林経営管理制度」を契機に、これまで手入れが行き届いていなかった森林の整備を進めています。八木町管内では、美里地区において南丹市から同制度による経営管理実施権の設定を受け、令和2年度から準備を進め、昨年11月に施業を開始しました。令和8年3月末時点で、計画地の約半分の整備が完了しています。

現場では、安全性と効率性を考慮し、作業路が整備できる箇所では機械による搬出を行い、困難な場所では伐採・玉切りのうえ林内集積を行うなど、状況に応じた方法で整備を進めています。今後は、残る施業地についても順次取り組んでいく予定です。

人工林は適切に管理されなければ荒廃し、災害リスクの増大につながります。私たちはこれからも森林整備を通じて地域の安全を守り、次世代へと健全な森林を引き継いでまいります。



間伐施業地全景



林内作業路



木植えよ 植樹の取り組み

●美山町森林組合

近年、シカによる食害の影響で、森林の更新が難しくなっています。以前であれば自然に再生していた山も、思うように次の世代が育たない場所が、市内でも見られるようになってきました。

こうした状況を受けて、できるだけコストを抑えながら、無理なく森林を再生していく方法を探る取組を進めています。本取組は、森林所有者、南丹市、芦生タカラの森の協力のもとで実施しました。

今回は、地域にもともとある樹木の種から苗木を育てて植える方法を取り入れるとともに、シカの食害から守るために「パッチディフェンス」という手法を採用しています。地域の自然に寄り添いながら、少しずつ森を育てていこうとする取組です。

植栽はイベントとして行い、約60名の参加者により、約30種類・600本の苗木が植えられました。多くの方に関わっていただくことで、森林づくりへの関心や理解を深める機会にもなりました。

この方法はすでに取り組まれている地域もありますが、南丹市でもうまくいくのか、これからの成長を見守っていきたいと考えています。今後も、地域に合った森林づくりのあり方を模索していきます。



令和7年度 緑化運動ポスターコンクール



緑化運動ポスターコンクールは、森林の大切さや保全の意義を広く伝えることを目的に、毎年開催されています。【主催:京都府、公益社団法人京都モデルフォレスト協会】

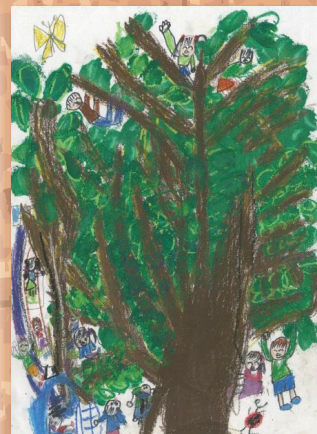
令和7年度は、府内112校から計754点の応募があり、南丹・京丹波地域の小・中学校12校からは104点が寄せられ、そのうち優秀賞が1点、努力賞が5点、佳作が25点選ばれました。

また、府内応募作品から選ばれた14点が、公益財団法人国土緑化推進機構主催の「令和8年用 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」に出品されました。その結果、南丹市立園部第二小学校2年・森内彩葉さんの作品が、国土緑化推進機構理事長賞に入賞しました。入賞された皆様に、心よりお祝い申し上げます。

身近にある「緑」は、普段はあまり意識することのない存在かもしれません。しかし、子どもたちの作品に触れることで、その大切さや魅力にあらためて気づかされます。

この秋、第43回全国都市緑化フェアin京都丹波が開催され、花や緑にふれながら、森林や木の価値を身近に感じられる機会が広がります。

ぜひこの機会に、暮らしの中の「緑」に目を向けてみてはいかがでしょうか。



国土緑化推進機構理事長賞
南丹市立園部第二小学校 2年
森内 彩葉さん



緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます



令和7年度 南丹市、京丹波町の皆様から528,479円の募金が集まりました!

南丹・京丹波林業振興会では、公益社団法人京都モデルフォレスト協会の募金協力団体として、『緑の募金』に取り組んでおります。皆さまからご協力いただいた募金は、サクラ、ハナミズキ、イロハモミジなどの植樹を通じて、地域の緑化活動に活用させていただきました。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

編集後記(表紙について)

南丹・京丹波林業振興会では、毎年「木材利用促進月間(10月1日~31日)」にあわせて、南丹・京丹波地域の林業や木材関連産業のPRのため、森林・林業及び木材産業の関係者とともに南丹・京丹波林業振興展を共催しております。昨年は「府内産材もくもくコンクール」、「木材展示記念市」、「京都丹波森林スクール」を実施しました。中でも、南丹・京丹波地域の小学校、中学校、支援学校の児童生徒を対象にした木工作品のコンクール「府内産材もくもくコンクール」では、17校・総勢436名が参加し、各校から選ばれた121点が出展されました。10月1日の審査会では、7名の審査員により、京都府南丹広域振興局長賞をはじめとする11点が入賞作品として選ばれました。出展作品は、10月4日から19日まで京丹波町の丹波自然運動公園(旧宿泊棟)にて展示し、多くの来場者にご覧いただきました。

さらに、入賞作品のうち8作品を『第50回全国児童・生徒木工工作コンクール』に応募したところ、八木西小学校の林稚奈さんの作品「真夏のひまわり」が、全国からの多数の応募の中から『院庄林業特別賞』を受賞されました。おめでとうございます!

南丹・京丹波地域は、緑豊かな森林に囲まれた地域です。この恵みを大切にしながら、森を育て、木を使い、その豊かな自然を次の世代へとつないでいく取組を進めてまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

南丹・京丹波林業振興会事務局(京都府南丹広域振興局農林商工部内) 電話 0771-22-1017 FAX 0771-21-0118)

【おくやみ】

「府内産材もくもくコンクール」や「木材展示記念市」を中心となって牽引してこられた南丹木材業組合長の柿迫正紀様が、本年3月、業務中の不慮の事故によりご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。当会といたしましては、生前の柿迫様の森林・林業に対する思いを受け継ぎ、その志を胸に、今後の活動を通じて継承してまいります。